

P05

小児歯科臨床実習におけるPBL教育のティ
ップス

○森川和政*, 木尾哲朗**, 牧 憲司*

*九歯大・小児歯, **九歯大・総診

【緒言】小グループによる問題基盤型学習

(Problem-based Learning : PBL) は、学
生が中心となった効果的な学習法の一つであ
り、自己主導型の学習や批判的思考、チーム
ワーク、そして単なる記憶ではなく理解を助
けること、またプロの言葉をとまなう能力を
促進するといわれている。一方、ティップス
(Tips) は元々、コンピュータ用語としてハ
ードウェアやソフトウェアを使う際に、役に
立つコツ、豆知識、裏技といった意味で用い
られてきた。転じて、現在では教育を技術、
あるいはスキルと考えての『教育のコツ、ヒ
ント、秘訣』といった意味を持つものとなっ
ている。今回、小児歯科臨床実習中に我々が
実施したPBL教育ティップスに対する教育
効果の分析検討を行った。

【対象および方法】臨床実習中の同意の得ら
れた歯学部6年生を対象とした。小児歯科臨
床実習期間中(1クール5日間/4名)に、2
名ずつ2グループに分け、それぞれに異なる
混合歯列期のパノラマエックス線写真を課題
として提示した。それぞれ実習期間内に課題
に対する自己学習、グループ学習を行い、最
終日に各グループの課題発表および討論を行
った。また、臨床実習終了後にアンケート調
査を実施した。

【結果および考察】課題発表後の討論および
臨床実習終了後のアンケートより、PBLを臨
床実習と同時に行うことは、知識と実践的な
スキルが平行して育成されると考えられた。
また、今後の自己学習方法修得の一助、生涯
学習の第一歩となることが示唆された。今回
実施したPBLは、PBLの長所を活かしたま
ま、短所である作成コストやチューター数な
どを減らすことができ、さらに時間や手間を
かけずに実施することができる簡便で効果の
高い方法であると考えられた。

P06

親と子の笑顔を支える小児歯科
—マザーズスクール参加者を対象にした
対話型質問紙調査による育児支援の検討

○藤中麻岐、西本美恵子、末吉利江、松野
美歌、藤沢このみ、宝野汐美、佐々木瑠美子
にしもと小児歯科医院(福岡市)

【目的】ニーズにあった育児支援を行うた
めに、母親の育児意識調査を行った。

【方法】対象は、2009年7月～2011年6月、
当院のマザーズスクール(グループ・プログラ
ム)に参加した母親100名である。自記式の
対話型質問紙調査結果をKJ法で整理し、カテ
ゴリー分類を行った。

【結果】

1. [子育てで大切にしている事] 子育ての姿勢 : 子どもを尊重、笑顔、情操を育てる、愛情を伝える、共感する、ダメと言わない、父親と過ごす。良い生活習慣 : 食事、挨拶、生活リズム、ルール、外遊び、片づけ。対応 : 抱っこ・スキンシップ、ほめる、きちんと叱る、話をきく、一緒に過ごす。子育て意識 : ゆとりを持つ、子育てを楽しむ、無理をしない、親らしく行動する、一緒に成長する。
2. [困り事や不安] 対応 : 食生活、性格・行動、生活習慣、上の子への接し方、自己主張、叱り方。母親の問題 : 体力・精神・時間的余裕がない、自信がない、緊急時の不安、仕事の復帰、仕事との両立、家事が苦手、近隣とのつきあい。父親の問題 : 不在、価値観の違い、協力しない、会話が少ない。家族の問題 : 健康、経済的不安。子どもの将来。
3. [参加者の感想] : 自分だけが悩んでいるのではないと楽になった。これでいいのだと自信がついた。先のことを聞いて安心した。

【考察】現代の母親が困り事や不安を抱え、育児をしている姿が認められ、心のサポートを含めた育児支援の必要性が明らかになった。スクール後、育児不安の減少、自己効力感の向上が確認され、小児歯科でのグループ・プログラムの有用性が示唆された。